

第4回 学校2学期制検討委員会 議事録

平成23年6月28日(火)

15:00~17:00

生涯学習センターけやき大会議室

(事務局) 開会のあいさつ、資料の確認、欠席者と会の成立の確認

(自己紹介) 各々より

協議

(委員長) 議題として、(1) 昨年度までの経緯について、事務局お願いします。

(事務局) 原案通り

(委員長) ありがとうございます。ここまでの段階で初めての方で何か質問がありますか。入選についての資料は初めて見た教職員は周知されていますか。

(委員長) 県としてもまだ最終的なことは出していないですね。

(井上) 県教委課長の発表だと来月の中旬にはっぴょうされるということ。

(委員長) 方向性とは、前期、後期がなくなるとか。そういう方向で動いている。

それでは、昨年までの経緯について何も無いようでしたら、アンケートの結果について、事務局お願いします。実態調査のための調査部会の方で読み取れることを事務局の方から説明してください。

(事務局) 原案通り 保護者への配布資料を活用して説明

小中学校における時数の増加数について

改めて見ていただき、付け足しなどありましたらお願いします。

(委員長) ありがとうございます。ただいまのアンケート結果について何か意見がありますか。アンケート自体は教職員は100%、保護者は不特定で抽出で行われた。少し時間を取ります。このアンケートを初めて見る人もいますので少し時間を取りますので自分ならこう考えるとかありましたら言ってください。

(委員長) アンケートの結果からの意見は第3回での意見は旧メンバーで出した。ぜひメンバーもいるので、重複しても構わないので、新たに意見を言っていただきたい。お一人ずつ伺いたい。

(小林) その前にまず、事務局に伺いたい。授業時数の比較で、新学習指導要領の対応に向けて、中学校は41.8時間増とあるが、28から29になってその35がプラスされているのか、それともまったく41.8時間も増えるということですか。数字の根拠は？

(事務局) 3学期制の時の総時数と比べてどれだけ増えているのか。35の増加分も含んでいる。

(委員長) それでは、皆さんからご意見の中でご質問もありましたら、どうぞ。

(小林) 結果を見て、方向性は見えている。2学期制の定着についてはなじんんでいる。5年間で進化させてきているという結果を踏まえて、2学期制の当初のねらいである教職員の意識改革を図るという形を考えれば、そのまま続けていってもいいかと感じている。

(二宮) 昨年までの経緯も含めて、まだ十分理解できない。5年間久野小であるが3学期制と2学期制の一番の大きなメリットの違いは7月と12月にある。そこは今までは通知表を出すために給食も早く終わりなおかつ午前中授業であったが、通知表作成がなくなり、その分授業時数増ができています。その代わりに、本校では、通知表がなくなった分、7月20日以降3者面談などで、20分間ずつ行い、夏休みの課題などについても伝えてきた。12月の教育相談も実施している。保護者の方からも通知表をぜひという形や数値をぜひという声は聞かれていない。大変落ち着いた学校生活を7月12月にも送れているし、当初はなじまないなどといった様々な意見があったが、現在は2学期制を生かした形で教育活動を行っている。時数のことも増えているので、そこで7月12月がなくなっていくことは厳しく、子どもを追い込んでいくことも予想される。2学期制継続がよい。

(小松) 昨年から継続して参会しているが、24年度から教頭会としても週1時間当たり授業が増えることは非常に部活のことなども考えるといろいろ職員の会議などもあり、大変なことはある。2学期制と3学期制の問題についても話が以前あり、中学の場合は進路があって、どうしても3年の時の成績は11月末には出さなければならないので、2学期制ですと、10月に出して、11月末に出していかなければならない。かといって夏休み前には出さなくてもいいかという保護者や子供たちのニーズにこたえるには11月末までに3回3年で出すことになり、実際には年度末にも出しており、年間4回出している。非常に多忙化につながっている。1、2年生においても面談の時期が夏休み直前に行っているが、仮評価という形で出している。生活と一緒に保護者に示している。ここで一回評価を出して、9月にテストを行って10月にもう一度出しており、多忙化とつながっている。小学校は7月がゆとりあると言われるが、中学校の場合はそれほど変わらない、かえって忙しくなってきた。その中で部活の大会が控えているので、授業を行い、部活も行い、土日にも出勤という形になっており、3学期制の方が中学校にとってはいいのではないだろうか。特に12月に行くかどうかもあり、7月に行い、10月に行わないが、12月にやらないで3月というあまりにも間が空きすぎている。12月に面談をやるとなると、10月の成績では期間が空きすぎているので、改めて教科担任からお資料集めをする。どちらにしても2学期制だとスパンが複雑な感じがある。いつも忙しいと感じがする。

(島津) 昨年に引き続きですが、教頭会でも小学校の方としてはほとんどなじんでいる。7月と12月に意図して学校行事をできるようになった。子どもたち、教師の健康面で考えると低学年でも授業時数が増えている状況にある。15年ぐらい前のようなやり方ではかなり6時間の授業日が増え、大変になる。施設(扇風機)の違いにより、暑さ対策等の環境面も必要。子どもと教師の触れ合いについては、学校の様子を見ると、休み時間はほとんど子どもと遊んだりしているので、触れ合う時間は増えているように感じる。小学校には外国語活動が導入されたが、そういう部分での研修の時間を設ける必要があり、生み出さなければならない。3学期制に戻したいという意見も教頭会がない。

(鈴木) アンケートによると、2学期制と3学期制について小学校、中学校の教員の違い

がみられが、進路の面で違うように感じた。以前、3学期制の箱根にいました。休みの前に成績がつけられ、けじめがつけられて3学期制の方がよいと思っていたが、小田原に来てみて、出す回数が減るということは教職員にとっては通知表を3回より2回の方が職員の負担感は違う。夏休みを短くしたりもしますが、そういうことをしなくてもよいのかと思う。ただ、けじめの部分でここで分かれるという10月の少しの時間で気持ちが切り替えられるのかといったこともあるが、職員の方としては2学期制の方がよいかと思う。

(田代) 今年からであるが、アンケートの結果から、小中の定着度の違いはどうしてだろうと思ったが、話を伺っていて、その違いはよくわかった。2学期制と3学期制どちらが良いかは難しい問題であるが、教育計画を立てる立場から言うと、標準時数を確保する、行事の精選、行事の時数の取り方、クラブ委員会など取り方など、一生懸命にやりくりをしてなんとか確保できている状態。決して、通知表が2回になったということで教師が負担などが楽になったということではなく、やはり今おかれているいろいろな問題をクリアしていくためには2学期制でもゆとりがあるという状態になっていない。特活の時間の取り方など時間の精選という情報交換をする中で、それぞれの学校で工夫したり苦勞している実状あることから考えると、どちらが良いということは結論は出せないが、これで今の状況の中で3学期制で給食も早く終わり、やっていくことはかなり難しいのではないか。

(井上) このアンケートで小学校と中学校は差があるのは、2学期制、3学期制の経験によると思う。保護者に話をすると、自分が3学期制しか経験していないため、子どもの立場でなく、大人の立場で意見が出る。保護者が比べることはできない。入試制度もそうであるが、大人の都合で2学期制から3学期制になったというのはかわいそうである。変わったとしても子どもたちにきちんと説明できる理屈は欲しい。忙しさはわかるが、忙しいから負担を軽くするために3学期制に変えるというのは理屈にしてほしくない。

(田中) 小学校ではのびのびとしていて、夏休み前に丁寧な面談に満足している、授業時数も増えていると感じている。しかし、中学生は受験を控えているので1年生の夏休み前から数字が欲しいのは確か。4回成績を出してもらっていたので、安心はしている。お任せしている。部活もやりながらは大変だろう。数字は欲しい。小学校は2学期制でもいいかと思うが、中学校は3学期制の方がと思っている。今のような入試制度であれば、内申点を取りに行くということはなくなるのか、入試生徒が変わるということはどうなるかが気になる場所である。

(高橋) 組合の方として、検討委員会があると、変わるのかということになる。小学校では子どもの切り替えができない、季節感がないという意見がありながらも、先ほどの話にもあるように、落ち着いてきていることもある。3学期制に戻すとこれまでは何だったのか、ということになる。2学期制の方がよい。中学校としてはいろいろな問題があるが、中学生の入試制度が変わることに期待する。今後の動きに注視していくことが大切。

(守屋) アンケートの結果を見ると、先生方は厳しい中、良くやっている。2学期制で行くということで学校はそれに合わせてやってきた。勤務校でも資料を充実させたり、

サマースクールを工夫したりして面談などで対応してきた。生み出されてきた時間はほとんど授業時間増になっている。子どもと向き合う時間にはなっていない。低学年でも5時間授業が増えたり、ますますゆとりがなくなっている状況である。学習内容を教えるという面では多くの時間は使えるが、学習の準備をする時間はどれだけ使えるかというそれは変わっていないか、減っているのではないだろうか。その分遅くまで残業したり、いえに持ち帰ったりしている人が増えている。中学校では、入試の制度がある中どうしていかを考えないといけない。中学校は3学期制にして入試に対応できるようにするのか、2学期制は維持したまま入試に対応していくのか、成績や面談の時期はいつ頃がよいのか、考えていく必要がある。アンケートのP9の教職員より2学期制により確実な評価が可能となったというのは、現状2学期制ですと夏休みなどにも活用ができる良さがある。

(部長) 昨日より学校訪問している。施設面を見ているが早く扇風機設置していきたい。2学期制についてどちらかがよいかということは避けるが、教育現場の声を大事にしていくことがよいと思う。集まった皆さんの声を聞いていてもいろいろな意見がある。児童生徒が安定して授業が受けられるような場にするべき。

(副部長) 中学校3年生の先生の負担が大きいことが分かった。保護者の意向を大事にしつつ、先生方の必要以上に負担にならないようにすることが大切である。新しい指導要領で3学期制で時数が確保が可能なのか。

(事務局) 6時間授業が増加する。土曜授業なども考える必要もあるかもしれない。多忙化につながるかもしれない。

(小林) 週28コマが29コマ。41.8時間確保できてきている。

(事務局) 夏休みを削って授業にしている地区はハード面(エアコン扇風機など)でも可能としてきている。夏休みを削って学力が、暑い中向上するのは疑問。

(小林) 週五日間、6時間授業で30時間、これまで週28時間が29時間になった。

(委員長) 授業数と学期制はあまりかわりがないのか。

(事務局) 小田原市は新学習指導要領前より2学期制を実施しており、40時間程度時数を確保してきた。そこに今回の改訂での授業増ができたが、小田原では2学期制という体制を整えて時数を確保してきたのでスムーズに移行することができたというように言える。

(柳川) 給食について、平成18年度で2学期制で給食の回数が中学校6回、小学校3回増えた。休みの始まりも終わりもすれすれまで行ってきた。準備なども含めて今が名いっばいなのかと思う。授業時数増のために行ってきた他市の状況はどうなのか。せつかく定着してきているのに、この中でいい策はないのかと思う。

(西村) 昨年度の2学期制の状況はわからないのですが、2学期制に変えているところもあるが、3学期制に戻しているところもある。

(事務局) 全国と神奈川県の実施割合は平成16年度においては、全国では小学校では10.2%、中学校10.4%神奈川県では平成18年度が小学校18.1%中

学校は19.9%。平成19年度から全国小学校20.2%、中学校21.0%、県小学校70.7%、中学校73%と22年度で2学期制が若干の伸び。

2学期制は湯河原町、南足柄市、中井、大井、平塚市、3学期制は箱根、真鶴、松田、山北、大磯、二宮が3学期制。秦野市は2学期制をモデル的に実施してきたが3学期制に戻した。また、高校につきましては、神奈川県は6割が2学期制。県西部は2学期制が主流。足柄高校はここで3学期制に戻してきた。

(西村) 横浜、川崎の学校数が多いため、神奈川県は割外高い。アンケートを見る限りでは今2学期制が落ち着いてきている。2学期制の良さをさらに引き出すような取り組みを考えていくことがよいかと思う。小田原市はH18～実施。H19に新学習指導要領が提示された。授業時数が増えていくことから学力向上、学習の充実が図れるという2学期制実施当初は授業時数増を一つの効果として挙げてきていたが、学習指導要領で授業時数確保というのを見越してということではなかった。来年度、中学校で全面实施となるが授業時数確保は重要な問題。その中で新たに現場の体制を整えている中で、余計な変化をもたらすのはいかかなものか、先生方の負担を増やすことはどうなのか、懸念される。成績に関してできるだけ細心の情報を欲しいと思うのは保護者として当然、そこにできるだけ対応できる形を実施していく必要があるのではないか。

(井上) 小と中のねじれはあるのか。

(事務局) 逗子、葉山は、小学校2学期制、中学校3学期制がいくつかある。

(委員長) アンケートの結果から意見をいただきました。中学校の2人の先生が欠席のため、中学校の意見が少ないのでここに反映していないのは残念。

(委員長) (3) 検討課題についてですが、見通しとして12月の定例会にかけるためにはその前に答申をまとめなくてはいけないので、実施あと2回となる。7回までにはあげておいて、8回は見直し、検証していきたいとすると、あと2回で。必要であれば臨時で増やすことも考えるが、あと2回、正味3回。守屋委員からもあったが、2学期制で行くのであれば、その中学校でおかれている現状を鑑みた方法を見つけ出すのか、それとも小学校2学期制、中学校3学期制もあるのか、それとも完全3学期制があるのか。その3択ともうひとつ4択目がある。入試制度も変わるので、もう一度見直す期間を作り、もう一度検討委員会を開催するのか、できれば、現在の状況で考えていきたい。そこで、なにか検討課題をお持ちの方がいたら伺いたい。

(井上) 1ついいですか。アンケートから小学校は2学期制から3学期制に変える必要がない。保護者もそんなに意見がない。中学校にしぼって特に夏休み前の成績に関して議論したらどうか。小学校を積極的に変えるというところの議論にはならない。中学校のみの議論をすることがよろしいのではないか。アンケートを見ても変えることに意味がない。

(委員長) 事務局案が何点あります。

(事務局) 前回の意見をまとめた一覧からどのようなところに課題があるのか考えた。①

小学校と中学校の違いどう考えていくのか。小田原としては幼小中一体教育をうたっており、そういった中での関係はどうか。②成績に関わることをどう考えるか。③高校入試に関わること④教育活動の充実をめざしたい学校現場にとって教職員の運用の面ではどうか、4つほど考えている。

(委員長) 漠然として検討課題が出されましたが、アンケートは一つの資料としてある。再度アンケートを取るのは難しい。保護者としてはどれだけの人が見ていただけるか。各学校で懇談会などで意見を集約するのがよいのか、そうすると是非になってしまうのか。

(井上) 私が出る話の中では、入試制度が変わるということで保護者の頭は学期制よりも入試制度に意識がいつている。それが、県P、市Pでも実施はいつなのか、H24の実施はないと言っていたが、そうすると今の中1が対象となる。少なくとも入試の方にウエイトが大きくなっている。実際発表されるとどうなるかわからない。

(委員長) 保護者の意識が入試にあるので。

(井上) 目の前にある入試から逆算して考えるのか、幼小中といった教育理念に基づいて考えるのか。目の前のものから中長期的な理念について考えていくのか。

(委員長) 中学校としては入試制度によって成績の時期は変わってくるのではないでしょうか。

(小松) 時期は多少変わるかもしれないが、回数は変わらないだろう。

(委員長) どういう改革が分からないので、どう対策するのかわからない。7月の発表を待って。

(井上) それも最終ではなく、その後パブリックコメントがあり、そのあとまた検討される。入試制度に合わせて学期制を考えるのか、小田原の教育理念に基づいて学期制を考えるのか。絞っていかないとまとまらない。

(委員長) この検討委員会の中では、小学校は2学期制のままでよろしいという考え方でおいておき、中学校について検討していく。現場ではもう一度意見を収集していただきたい。それぞれで一度議論していただき、その意見をここで挙げていただきたい。保護者としてできることは、市P連でも保護者の意見を。

(井上) 保護者は真っ白な状態で意見を求められても自分の経験でしか話ができない。現実には保護者も一つでもいい高校に生かしたいと願望もあるので、夏休み前にどういう対策をしたらよいのか、この数字で学校を受けられるのか、入試制度も変わり、内申書も代わりなのか。

(小松) 2学期として考えるならば、子どもを半年間見て、前期、後期のスパンで提示するのが本来の考え。中学校の場合は、面談をするにしても、成績について7月に出さないで教師も保護者は可能なかどうか。中学校の意識改革など考え、今までどおりのやり方をしているのが厳しいというなら、7月の成績を出さないことなど、これまでの考え方を大きく変えなければ夏休み前の成績提示を本当にやめてしまってよいのか。そういったことが可能なのか。

(井上) それは納得がいかないと思う。夏休み前に今やっていることをやめるということは現実的には保護者を説得することが難しい。

(小松) 2学期制でやりながら7月の提示のために教員は一人一人にコメントをつけている。数字だけではだめ。7月にやらないとなると、どうなのか。本当の意味で2学期制を考えていくと。

(田中) 成績はいただきたい。現在も細かく出していただいているので安心感がある。そこで私学を選んでいたりもする。部活もよく見ていただいて、過労死しないかなと思うくらいで、先生の大変さは十分わかるので、2学期制ということで2回の成績にした方がいいのかと思うが、成績はやはりいただきたい。

(小松) 教頭会の方でも話していきたい。

(小林) すべての学校では、数字を4回だしているわけではない。夏前に出さないところもある。白山方式は、各教科の観点に応じたコメントをだし、それをもとに面談をする。2学期制と成績を考えていくと混同する。小田原市の方針が幼小中一体であるのだから、そこで小学校は小学校、中学校は中学校で考えていくことはおかしいと思う。それはきちんと押し通していき、このアンケートの結果を見ても中学校ではいろいろ出ているが肯定的に見ているというのが高いことが見えており、それはきちんと評価し、あとは先生方の意識改革ができているかどうかであり、2学期制やっていっていいのかなと思う。

(守屋) 2学期ありきで考えるかどうかもあると思うが、保護者側としてはきめ細かな成績が欲しい。保護者へのきめ細かな成績対応。小田原市が教員を配置する。それは難しいこと。そこで、夏休み前に保護者が求められていることは何なのか、数値なのか、コメントなのか、それとも生活面でのコメントなどが欲しいのか、そのあたりをすり合わせて今できる最善の策を探っていけたらどうなのか。小学校でも成績を手持ちで面談を行います。学習に関しても個に応じたコメントをしている。学校によっては紙面で伝えているところもある。保護者は細かく知りたい気持ちはわかるが、教師側はそれを十分準備する時間の保障はないので、そのあたりを折り合いをどうするか。授業時数は確保は可能かと思うが、その処理する時間の保障もどう考えていくか。一人一台のパソコンを与えられているが、事故防止ということで持ち出さないということで行ってきているので、より一層学校にいたる間に成績関係の処理を済ませないと困る。

(委員長) 保護者のニーズは何かで取りますか。

(井上) 今のような話だと取らないとわからないですね。

(委員長) でも希望ばかり取るわけにはいけないので、どこまで範囲内なのか。

(井上) 僕は夜中の2, 3時当たり前だったので、7時8時ならはやいなあ。労働時間で議論をすると、それは理解を得られない場合もある。精神的な部分もあるので、そこは理解できる。保護者も精神的なことを求めていると思う。どういうコメントがくるのか、見たい。

(高橋) 入試のことについて、前期、後期は2回チャンスがあつていいと思っけていてもそ

こに課題があった。前期後期を無くすのも早く決めてしまえばどんなミスが見つかるかわからない。入試の問題については時間をかけてじっくり検討してほしい。

(田代)話を聞いていて、小学校や中学校のことを知らない部分が多かった。小学校では入試に近いわけではないが、知っていく必要がある。小学校の現状も踏まえた中学校の現状を考えるべき。小中をやはり両方で考えていきながらの方がいいなあと思う。小学校でも3学期制の方がいいという保護者もいられると思う。

(二宮)また、振り出しに戻らと思う。昨年を受け、私たちは今後どうやって議論していくのかを考えていくべき。原点に戻ってしまうのはどうか。

(委員長)再び調査部会にやってもらうか、成績に関わるつけ方、頻度、回数、内容などを求めるための調査をやってもらうか。保護者の方に意見を集約するのか。

(小松)各学校がこの夏休みをどうしていくか、学校がどう考えているかを調べる。

(井上)保護者に投げるのは、真っ新ではなく変える部分などを示して方向性が出てからの方がよい。真っ新のときはまたゼロからになってしまう。アンケートも結果が保護者にわたっているのだから、これを見て意見が出てくるのかと思う。様子を見てはどうか。

(事務局)各中学校に夏休み前の成績をどのようにしているのか。を調べるのは可能です。

(井上)教員が増えれば成績処理に問題は解決できるのか。

(守屋)授業持ち時間、教材研究、部活動など、教員が増えれば成績処理が生み出せる。時数が増えて、持ち時間が増えているのであるから今まで教材研究に充てていた時間が授業になってしまう。

(西村)教職員が子どもたちへきめ細やかな支援をしていく中ではよりたくさんの人材が必要である。先生方が子どもたちのために忙しく動いていくことについては充実した時間と捉えていただきたい。本当に長時間関わっている方はおおい。その中で保護者のニーズに効率的に対応できるような状況を作らなければならない。

(委員長)11校しかないが、11校のやり方を知り、統一しなくてもよいが、良い方法を取り入れてもらうとか。保護者は中学校部会に聞いてみる。そこで出てきた意見を集約します。そこでまた単Pで聞いてもらってもよい。

(井上)資料をどう提示するか。アンケートはいいと思う。

(委員長)各現場に戻し、聞いてくる。

(事務局)総括教諭は調査部会を開催したい。

(委員長)調査部会で分かったことはどんどん出してほしい。西教組は

(守屋)出来る範囲で調査をします。多忙化解消のため、調査はしないようにとなっている。

(委員長)進行を事務局に戻します。

(事務局)閉会 第5回は8月末ぐらいで、日程はまた調整させてもらう。